



保護者の学び舎 第9回



浜松キャラバン隊10年史

「わたしたち浜松キャラバン隊『浜キャラ』です！みんなちがってみんないいを合言葉に活動をしています。」と公演の冒頭でお話をして今年で10年が経ちました。

そして、令和元年6月1日に行われた路上演劇祭はちょうど100回目の公演となりました。

知的障害や発達障害に対する無理解や偏見、不審者と勘違いされて警察へ連絡など、そんな経験から「知ってもらう」ための啓発が必要ではないかと感じ活動を始めました。

下記画像はこんなときどうするの？という寸劇です。 場面に合わせてバージョンがあります。



お茶屋編



コンビニ編



乾物屋編

人が多く集まるフェスタなどのイベントでは絵本の朗読を行っています。



ひび割れ壺の物語



おはようバスのおともだち

○実際に体験してもらうことの大切さとして疑似体験

①軍手をはめてシャツを着てみよう。

不器用さを体験しながら周りからせかされた時、
穏やかに対応してもらった時の気持ちはどうだったか。

②絵を描いてみよう

4つのお題（富士山、ボール、ちょっと、ちゃんと）を出して
絵に描いてもらう。「ちょっと」や「ちゃんと」など絵に描き
にくい言葉は伝わりにくい。



疑似体験は、知的障害者の困り感を体験し、声の掛け方や接し方のヒントを知ってもらいます。

疑似体験を通して、地域社会にはいろいろな人がいることがわかります。

活動を始めて10年、10年の間に、何か変わったでしょうか・・・。

相変わらず、偏見や差別は感じますが、何もしなければそこで止まってしまいます。

知的障害、発達障害と言ってもみなさんそれぞれです。特性を伝え、困っていることを伝え、何を支援してもらえれば生きやすくなるのか、毎回試行錯誤ですが、これからも地道な活動を続けていきたいと思えます。

■公演の依頼先・問い合わせ先：hamacara@hamamatsu-ikuseikai.com（浜松キャラバン隊隊長高橋久美子）